

今年8月国宝・重要文化財に指定された琵琶湖疎水。新聞班がその歴史に迫った。

1 986年に都が東京に移ってから衰退の一端をたどった古都・京都。その産業の振興を図ろうと計画されたのが疎水事業であった。今回国宝に指定されたのは、特に文化的価値が高いと評価された5か所。いずれもこの疎水事業に関連する遺産だ。

南禅寺水路閣写真下は蹴上から若王子に水路を通ずにあたり、技術者の田邊朔郎が地形や景観を考慮して設計した。現在では京都の観光地のひとつとなっており、我々新聞班が訪れた際も多くの観光客でにぎわっていた。

高低差のある琵琶湖疎水の建設には、物資を積んだ船を高所まで運ぶイ

ンクライン写真中央が必要不可欠だった。全長582㍎、高低差は36㍎あり、建設当時は世界最長のものであった。また動力は近く水流による発電で確保していたそうだが、現在はかつて船を運んだ台車の線路が残っており、散策スポットとなっている。

◀レールと台車



南禅寺水路閣



◀レールと台車

時代を越え 水を届ける

琵琶湖疎水隧道

隧 道とはトンネルの意。今回は3つの隧道が国宝となった。

第一隧道写真左頁上は日本で初めて堅坑方式で建設された全長2436㍎のトンネル。今回国宝に登録された隧道としては最長のものだ。新聞班はその入り口に訪れた。第二隧道は全長124㍎の短いトンネルだ。入り口写真左頁中央上部には「仁以山悦智見為水飲」の扁額がある。「仁者は動かない山によるこび、智者は流れゆく水によるこ



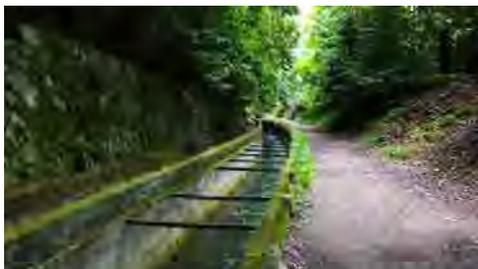
▶第三隧道入口のアーチ

ぶ」という意味だそうだ。赤レンガの城のような姿が印象的な第三隧道の入り口写真右。ここを始点とする第三隧道の全長は約850㍎ある。これらの疎水施設は現在も京都の水源として使われている。ところで、琵琶湖から京都への水資源の供給をめぐっては、

また、京都市は、滋賀県の水の供給に京都市民の感謝の気持ちを表すものとして、毎年滋賀県に感謝金を支払っている。滋賀と京都の深いつながりが垣間見えた。

文字があった写真左。

「琵琶湖の水とめたるか」が有名だが、実際は滋賀県には水門を操作する権限がなく、管理しているのは京都市である。新聞班が琵琶湖側の取水口に行くと、「駐車禁止 京都市水道局」の文字があった



懸けた 琵琶湖疎水

京滋の歴史伝える 疎水施設

完成以来135年の歴史をもつ琵琶湖疎水。ここでは、国宝・重要文化財に登録された施設・遺産を中心に、その役割や歴史について紹介する。

第一疎水取水口



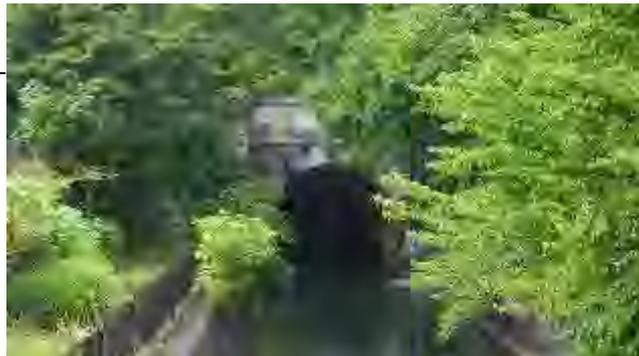
琵琶湖疎水の始点。京阪三井寺駅から徒歩5分。

第一隧道入口



最初のトンネルの入口。アーチ上部には伊藤博文の揮毫による「気象萬千」の扁額がある。桜の名所として知られる。

第二隧道入口



琵琶湖から離れること約8㎞。第二隧道は角度によってはここから出口が見えることもある短いトンネルだ。

古都・京都の再興

遺産に見る

先人の努力と知恵

第三隧道入口



ねじりまんぼ

蹴上インクラインの下を横断するためのトンネル。強度を保つためにレンガがらせん状に積み重ねられているのが特徴的だ。



山科から蹴上に抜ける第三隧道の入口。アーチ上部の扁額は「過雨看松色」。時雨が過ぎるといちだんと鮮やかな松の緑をみることができるとい意味だそうだ。



煉瓦工場跡

第一疎水の建設に必要なレンガの製造をしていた工場の跡地。琵琶湖疎水で使用されたレンガのほとんどはこの工場で作られていたという。京都地下鉄東西線の御陵駅の出口右手にある。

蹴上インクライン



右の写真にあるのは物資を載せた船を載せて運ぶための台車。この台車をケーブルカーのように引くことで船を南禅寺船溜まで運んでいたという。現在は線路が保存されており、その上を歩くこともできる。春は多くの観光客が桜を見に訪れる。

南禅寺水路閣



南禅寺境内にある水道橋。計画されたときは歴史的な寺院に近代的な建築を建てることに反対の声もあったそうだ。

田邊朔郎像

建設工事の主任技術者・田邊朔郎の石像。



常識のアップグレードinしが防災フェア2025

8月8日、県庁にて防災フェア2025が開催された。大災害が懸念される中、防災意識の向上と最新の防災の現状を知るため取材した。

今こそ、「やさしい日本語」

災害時の多文化を考える

滋賀県庁総合企画部国際課のジエゴ・デ・ソウザさんとクリス・ブリッキーさんに話を伺った。

多文化共生の一環として日本に来て実感するのはやはり災害の多さ。日本人には、外国人にとって慣れない災害から助けてほしいという想いが強いようだ。

ところで最近我々が見

る掲示板や何語で書かれているだろうか。日本語、英語、中国語、韓国語……

多くの言語を並べることばかりになっていっているのではないだろうか。例えばソウザさんの母語はポルトガル語だが、表記されている場合は少ない。外国人としては「やさしい日本語」にも目を向けてほしいと感じているようだ。

「やさしい日本語」。例えば「困難」と「難しい」

確かに厳密には意味が異なるが、外国人に「伝える」という一点において細かなニュアンスの差異と大まかな言葉の持つイメージ、どちらが優先されるべきだろうか。表面的な多文化共生ばかりになりつつある現代を変えていくべきではないだろうか。



▲部員(右)の質問に答えるブリッキーさん(左)とソウザさん(中央)

自衛隊の目につくる今 被災地支援の今昔

自衛隊滋賀地方協力

本部の廣政良藏さんに今の災害の傾向を伺った。

廣政さんは一般曹候補生となり、阪神淡路大震災の被害を直接受けて自衛隊を続ける決意をしたようだ。

阪神淡路大震災の頃自衛隊になかった警察権の改善、陸海空軍の協働、インフラの整備など災害救助の面で良くなっていることも多いようだ。実際に昨年の能登半島地震でも船やへ



▲被災地支援について語る廣政さん(右)

楽しく、「伝える」

成安造形大学の工夫

成安造形大学の学生の方々が防災ボードゲームを企画されていた。

ゲーム内容はゴールを目指しながら避難所生活で直面する課題に向き合っポイントを集めるすごろく形式。

普段から環境についてなどの社会問題に関するワークショップをされているようだ。今回の企画は子どもたちとつくりあげてをコンセプトに大学生自ら運営されていた。子どもたちの防災への理解を深めるためにポップにライトにしようとしたのだ。

ところで膳所高生も「伝える」立場に回るべきではないだろうか。講演会や研修など受動的であることに主体的になっているのではないかと私は思う。確かに教えてもらい新たな知見を得ることも大切だが、知見を与える側としてのアクションも大切なのではないだろうか。



▲ゲームの課題は実際の避難所で起こった問題なのだそうだ。

リを活用して迅速な救助を可能にしていたという。しかし一方で、自衛隊に志願する人が少なく、交代制が成り立たなくなっているという問題もある。「災害が少なく比較的安全な滋賀県だが手を抜くことなく頑張りたい」と話してくれた。

被災エリアに 通信を

NTTドコモでは、緊急時に電力供給や通信の復旧を実施。アンテナによって救済エリアの調整が可能になってきている。能登半島地震でも出動した。災害時だけでなく万博や花火大会での混雑でも大活躍している。



今こそ、膳所高校生の防災

防災フェアから若者への防災意識の低さを実感した。高校生の現在だからこそ今一度防災について考えてみるべきではないだろうか。

我々のための備え

膳所高校の備えは帰宅困難になった我々生徒のためである面が大きい。

膳所高校ではアレルゲン27品目を除いた食料一

泊分が第1グラウンドの備蓄庫に保管されている。

他にもテント、ガスで動く発電機、扇風機、洗剤、

せっけん、マスク、カイロなどを準備している。

最近では「災害時非常用トイレ」をいちはやく設置

できるような工夫もされている。

また防災備蓄倉庫はグラウンドに2つ

あり、一方は備品や物資を保管している倉庫、も

う一方は食料を保管している倉庫である。

膳所高校はあまり過去に大きな被害にあったこ

とはないが、地震・台風・

竜巻などの災害が想定さ

れる。地形上大きな災害

が少ない滋賀県の高校で

あるが、いつ何が起こつ

ても対応できるような工

夫がされている。



▶食料を保管している倉庫



▶備品や物品保管されている倉庫



▶防災備蓄倉庫に保管されている食料や水



▲防災備蓄倉庫に保管されている備品や物品

向き合う

高校側が備えを用意しているのだから我々生徒側も当然備えをする必要があるだろう。非常用持ち出し袋の準備やハザードマップの確認、家具等の固定。何をすればよいかは分かっているのに実際に行動に移せていない人は多いのではないだろうか。

当然災害はなかなか予想することができず、突然起こることである。実際に災害が起こった時に「すればよかった」ことを知っていても手遅れであり、意味がない。いつまで高校側や国に頼りきっているのか。自分自身のことでは自分で守るべきではないだろうか。

南海トラフ巨大地震など災害が少ない滋賀県でも大きな被害が想定される今こそ、今一度自分自身の防災について考え直してはどうだろうか。

膳所高校の現状とこれから



学校防災を再考する

校長先生に避難所としての膳所高校について話を伺った。

避難所としての膳所高校

膳所高校は確かに避難所であるが、敷地内全てが避難所であるわけではない。有事の時は体育館と武道場が、避難者が多

くなった時教室が避難所として開放される。

また、県立の高校は避難所としての体制が整っていないことも多い。本校も冷暖房の管理やトイレ

◀避難所に想定される体育館(上)と武道場(下)

レの整備が始まっているが、まだまだ不十分である。現状は近隣の小中学校への避難が中心である。

「地域と共に」

では、膳所高校は災害への備えをする必要はないのか。そんなことはない。もちろん前面のように帰宅困難となった際の我々のためにも災害対策は必要である。しかし膳所高校が避難所であり、災害への備えを怠らないことには別の意味がある。

地域に果たす役割の一つとして本校は避難所になっている。本校は地域の方々の協働から成り立っているところも大きい。だからこそ、この地域の方々のありどころとしての膳所高校も必要なのであると校長先生は語っていた。

膳所高校の防災の現状について語る校長先生▶



オープンスクール開催！ 2日間でのべ1566人参加



▲Open!ZEZE High,2025の様子

8月20日(水)・21日(木)にOpen!ZEZE High,2025が開催され、のべ1566人の中学3年生と保護者が参加した。例年は夏と秋に行われていたオープンスクールを今年は夏のみの開催とした。参加者の内572人が体験授業にも参加した。今ごろ受験生は受験勉強に励んでいることだろう。今年度から入試方法が変わるが、そんな中でも入試本番で自分の力を精一杯発揮して、悔いの残らない結果を掴みとってほしいことを祈るばかりだ。